



初等部だより 5月号

鎌倉女子大学初等部

令和3年4月28日

第2号

爽朝活動と有用感

部長 勝木 茂

日射しも日に日に明るさを増し、岩瀬キャンパスの若葉の緑が鮮やかになってきました。新学期が始まり約3週間が経ちました。1年生も入学直後と比べ、初等部での生活に少しずつ慣れてきたようで表情に柔らかさを感じることが出来ます。また、進級した2年生から6年生も新しい学級の友達と落ち着いた雰囲気でご過ごすことが出来ています。日々の授業の様子を見ても、積極的に学ぼうと張り切っている子どもたちをたくさん見つけることができ、大変嬉しく思います。また、制限がある中ではありますが、休み時間には初等部グラウンドや第一グラウンドで遊ぶ子どもたちの姿があります。コロナ禍の真っ最中ではありますが、子どもたちは元気に新年度のスタートを切ることが出来ているようです。

しかしながら、新型コロナウイルス感染者の増加はおさまる様子が見られず、初等部におきましても引き続き対策の徹底を図っていきたくと考えております。対策の徹底には保護者の皆様のご協力が不可欠です。これまで同様、登校前のご家庭での検温をはじめとするお子様の健康観察を十分に行っていただき、風邪症状（発熱、咳、喉の痛み等）がある場合は医療機関での受診やご自宅での休養などをお願いいたします。万一、関連機関等から濃厚接触者との連絡があった、PCR検査を受けることとなった等があった場合、お子様やご家族のプライバシー保護には最大限の努力をいたしますので、できる限り速やかに初等部までご連絡いただけるようお願いいたします。これらの場合は、ご家族の方の場合も含め登校されなくても「欠席」扱いとはいたしません。引き続きご理解とご協力のほどよろしくお願いいたします。

さて、初等部では、一年生が困らないように、無理なく初等部での様々な生活に慣れることが出来るように、6年生が当番制で1年生のお世話をする「爽朝（そうちょう）活動」を行っています。（昨年度は、臨時休業期間と重なり十分には出来ませんでした。）

登校してきた1年生を、何人かの6年生が

丸玄関で迎え、上履きへの履き替え、靴箱への靴の仕舞い方、はやぶさカードのタッチ、手洗いやアルコール消毒等のやり方について、その1年生の状況に合わせて、お世話をします。また、教室では連絡帳の出し方や身支度についてお世話をし、その後、場合によっては絵本の読み聞かせや折り紙遊びについても6年生がやってくれます。もちろん、出来るだけ一定の距離をとり、スキンシップは避け、活動後は6年生にも手洗いや消毒等を行うよう指導をしています。



活動の様子を見ていると6年生にお世話をしてもらっている1年生も嬉しそうですが、それにも増して6年生の満足そうな笑顔が印象的です。人は、自分が周りの人たちや社会の役に立っていると感じるとき、自分は大切な人間だと思えるようになります。いわゆる自己有用感と言われるものです。特に子どもたちの場合は、有用感が認識できるよう教師や周りの大人が適切に声かけをしたり、肯定的に評価したりすることも必要です。有用感を感じることが出来る場面やそれらの経験の積み重ねは、やがて周りや社会へ貢献しようという意識となります。ある6年生は「1年生に頼りにされることは嬉しい」「自分たちが1年生の時、その時の6年生にいろいろとお世話になったのをよく覚えている」と話してくれました。きっと今年の1年生が6年生になった時にも同じように「爽朝活動」が行われていることと思います。